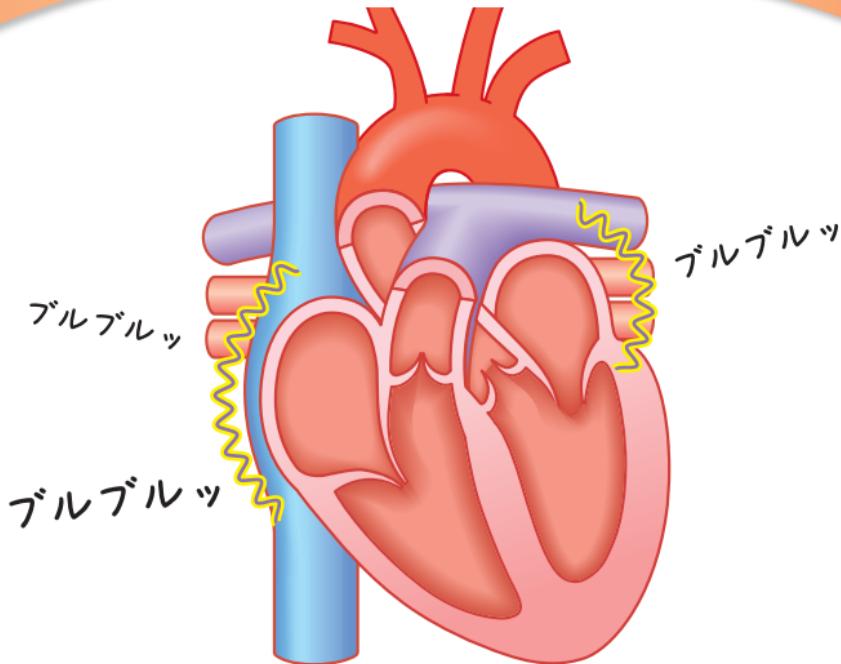


そうだったのか!

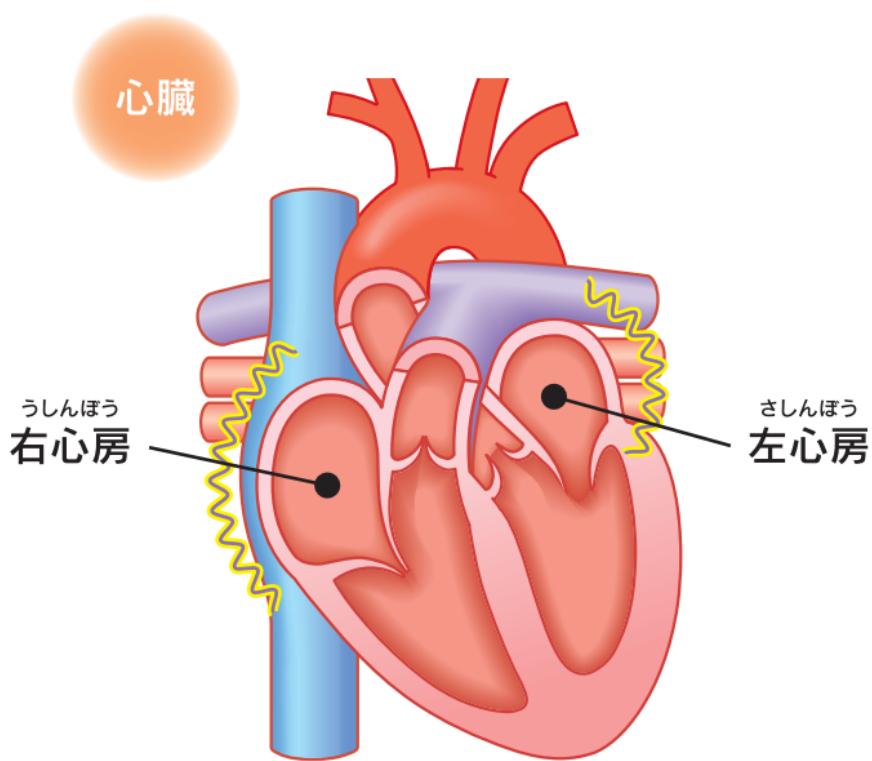
知つておきたい
「心房細動」のはなし



監修 日本医科大学大学院医学研究科
循環器内科学分野 大学院教授 清水 渉先生
国立循環器病研究センター 脳血管部門長 豊田 一則先生

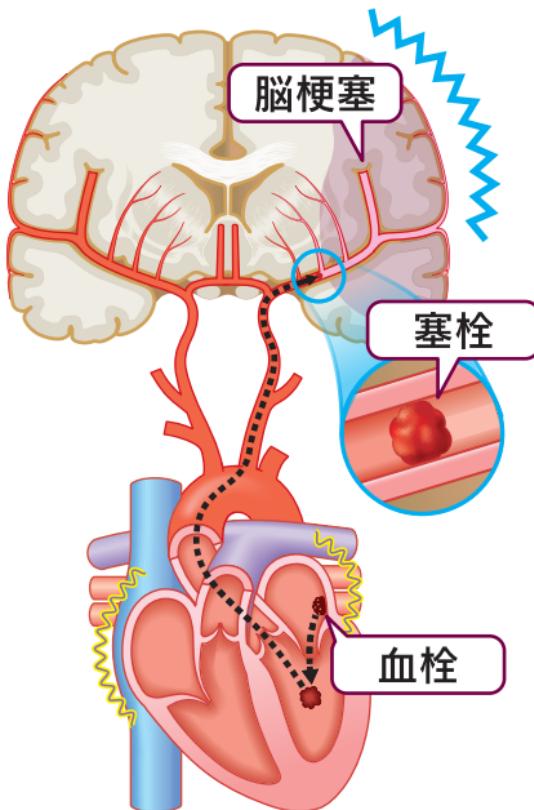
心房細動は、心臓の心房という部分が細かくふるえる病気です。

不整脈の一種で、動悸、めまい、胸の痛みや不快感を感じることがあります。また、症状がない場合もあります。100人に1人がかかるともいわれ、年齢とともにになりやすい病気でもあります。



心房細動では、 脳梗塞が起こる可能性があります。

心房細動では、心房の中で血の流れが悪くなり血のかたまり(血栓)ができやすい状態になっています。できた血栓が脳に移動すると、脳の血管を詰まらせ(塞栓)、脳梗塞が起ります。



心房細動では、 おもに2つの治療をします。

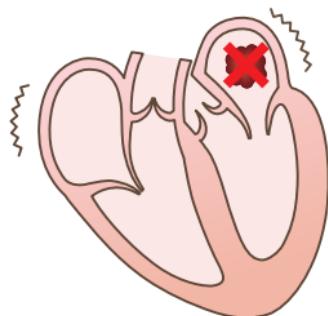
心房細動では、大きく分けて①心臓の動きを調節する治療と②脳梗塞の予防が行われます。

① 心臓の動きを調節する治療



お薬による治療やカテーテルを用いて心臓に直接行う治療があります。

② 脳梗塞の予防



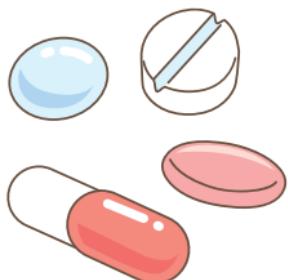
血のかたまり（血栓）をできにくくするお薬をのみます。

症状がある心房細動の場合は心臓の動きを調節する治療を行います。

心房細動の不快な症状は、日常生活に影響をおぼすことから、症状が問題になる場合には心臓の動きを調節する治療を行います。

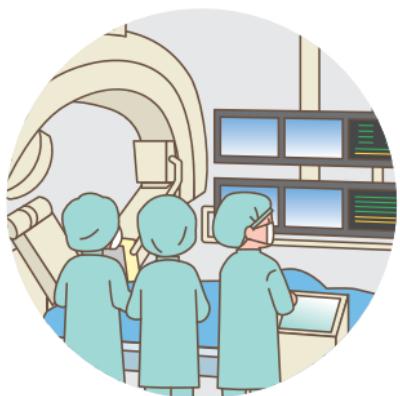
■お薬による治療

心拍数を抑えるお薬や不規則な心臓の動きを整えるお薬があります。



■カテーテルを用いた治療

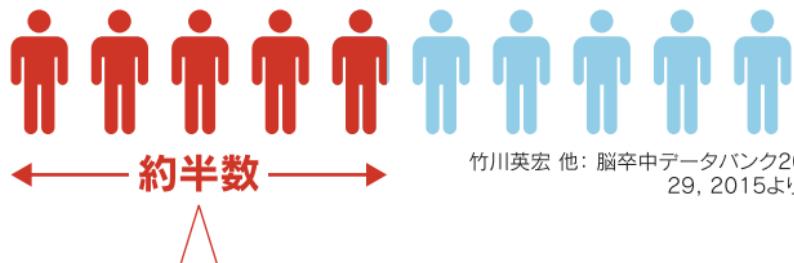
太ももの血管から電極カテーテルという管を入れ、心房の中の壁を焼くアブレーションという治療法があります。心房で起きている異常な動きを抑える治療です。その他、手術をする場合もあります。



心房細動では、 脳梗塞の予防が大切です。

心房細動による脳梗塞は、寝たきりになつたり亡くなってしまう患者さんが約半数と、重症になりやすい脳梗塞です。寝たきりや要介護はご家族の負担にもつながります。そのため、脳梗塞を予防することがとても大切です。

■ 心房細動による脳梗塞で 重症になるまたは亡くなってしまう患者さんの割合



命を落とす



寝たきり



介護が必要



脳梗塞の予防のために、新しいお薬も出ています。

脳梗塞予防のお薬「抗凝固薬」は、血を固まりにくくしますが、出血したときに血が止まりにくいため、日常生活ではケガをしないように注意が必要です。最近では、食事制限がなく、出血の危険も少なくなったお薬も使えるようになっていきますので、医師・薬剤師と相談のうえ自分に合ったお薬を選ぶことが大切です。



一部のお薬で制限が必要な食品 (ビタミンKを含む食品)



納豆



青汁



のり



ひじき



わかめ など

- 抗凝固薬は脳梗塞にならないために、毎日忘れずにのみましょう。
- お薬について気になることがあつたら医師・薬剤師に相談しましょう。

あなたは予防が必要？

心房細動による脳梗塞 危険度チェック

1

心房細動だと言われている

はい

2

以下の項目に当てはまるものがある

- 「心不全」だと言われている
- 「高血圧」だと言われている
- 75歳以上である
- 「糖尿病」だと言われている
- 過去に脳梗塞、脳の血管が詰まる発作を起こしたことがある

はい

予防のお薬について
お医者さんに相談してみましょう。



Bristol-Myers Squibb

